

318)

やぐるま はな
矢車の花

待ち合わせした図書館の裏
卒業してもきっと会おうと
と^と歳^き月は流れてあの日の写真
あの娘^このために一輪摘んだ

やぐるまそう
矢車草の花が咲いてた
小指からませ約束をした
机の奥に眠っているけど
矢車の花今日も咲いてる

田舎育ちの僕の心が
ラッアワーのよごれた空気
人の心は日々につらい
あの娘^このために一輪摘んだ

都会の風に溶け込んでゆく
吸い込むように今日を生きる
野に咲く花は今もかわらず
矢車の花今日も咲いてる

恋の記憶はいつも哀しみ
ためらう心勇気にかえて
小指からませ約束をした
あの娘^このために一輪摘んだ

愛の記憶はいつも苦しみ
恋を重ねて生きてきたけど
過ぎし日の夢は帰らず
矢車の花今日も咲いてる

まつりはや
祭囃しの太鼓のように
時に優しく時に激しく
美しき山美しき川
あの娘^このために一輪摘んだ

僕の人生波乱に満ちて
嵐のように通り過ぎてく
ふるさと
故郷の風今も忘れず
矢車の花今日も咲いてる

恋の記憶はいつも哀しみ
あの娘^このために一輪摘んだ

愛の記憶はいつも苦しみ
矢車の花今日も咲いてる

→